まちの話題

高校魅力化プロジェクト道内の事例を紹介

高校魅力化プロジェクトについて考える講演会が２月20日、総合福祉センターで開かれ、約20人が聴講しました。

講演会は、町が事業委託した（株）エーゼログループ厚真町支社が企画・運営。『厚真町、むかわ町、大空町から見えてくる「高校×まち」の未来のカタチ』をテーマにして、町地域おこし協力隊教育魅力化支援員の川嶋圭さんや道内を中心に活動する（株）Prima（プリマ）Pinguino（ペンギーノ）プロジェクトマネージャーの岡本真実さんらが事例を紹介し、厚真高校１年の蹴揚葉月さんらも活動を報告しました。

川嶋さんは「地域での直接体験を重ねることで、生徒たちに主体性が生まれました。活動の成果はまだ分かりませんが、高校生の認知度は広がってきている」と説明。蹴揚さんは「高校生被災地ガイドの活動を通じて、地域の方と共に被災者の声を伝える語り手になりたい」と抱負を述べました。

高校魅力化の事例について紹介する関係者の皆さん

第５回あつまにぎわい会議

新庁舎周辺等の整備について概要を聞く参加者の皆さん

役場庁舎や文化交流施設などの整備に向けた「第５回あつまにぎわい会議（基本設計編）」が２月26日に総合福祉センター大集会室で開かれました。

会議は２年ぶりの開催となり、町民29人が参加してワークショップ形式で行われました。これまでの会議で寄せられた意見を基にして「みんなの居場所」「過ごしたくなる図書館」「歴史・文化をアーカイブ」「厚真らしさ」「周遊と交通」「広場」について、グループに分かれて意見を交換。アイデアを実現するためにはどうしたら良いかについて、知恵を出しました。このうち文化交流施設について「学校とのかかわりや子どもたちと施設のつながりについて模索してはどうか」との意見も出されました。

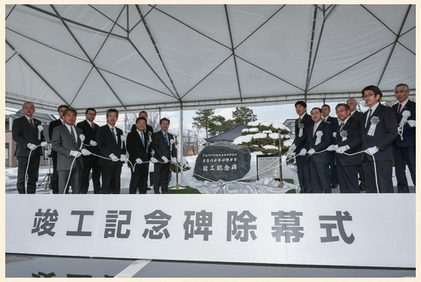
第４回津波防災地域づくり推進協議会

第４回厚真町津波防災地域づくり推進協議会（会長・定池祐季東北学院大准教授）が３月１日、厚南会館大集会室で開かれ、津波避難施設の建設などを網羅した「厚真町津波防災地域づくり推進計画」を審議・承認し、宮坂町長に計画書を提出しました。

会議は、町から委嘱を受けた国や北海道、学識者、電力会社、消防署・団、漁協、社会福祉協議会、関係する自治会長、警察などオブザーバーを含め35人が出席。推進計画の修正最終報告および住民懇談会の結果概要やJR日高本線の踏切横断について、事務局が報告しました。宮坂町長は「知見に基づき、より安全な地域づくりのため、ご協力をお願いしたい」と語りました。

計画書を宮坂町長に提出する定池会長

国直轄の砂防事業が完了 完成式・記念碑除幕式



記念碑をお披露目する関係者の皆さん

胆振東部地震で被災した厚真川水系の国直轄砂防事業が完了し、総合福祉センターで３月２日に厚真川水系砂防事業完成式が行われました。

北海道開発局と北海道、厚真町が主催し、こやり隆史国土交通大臣政務官や鈴木直道北海道知事、岩本剛人参議院議員など来賓、工事関係者約130人が出席しました。式典で鈴木知事は「震災の記憶を風化させることなく、未来に継承するよう危機管理に万全を尽くし、被災地の復興と発展を願います」とあいさつ。宮坂町長は「震災から６度目の春を迎えました。多くの関係機関のお世話になり、町民を助けていただきました。120年の歴史を次世代につなぐため、再び輝きを取り戻す努力を続けます」と話し、渡部議長が「関係機関の皆さまに感謝いたします。安心・安全な生活を取り戻すことができ、町民を代表してお礼申し上げます」と謝辞を述べました。

引き続き、役場敷地内では関係者による「厚真川水系砂防事業竣工記念碑」と碑文の除幕式が行われました。記念碑は、３月中に日高幌内川上流に移設され、震災の歴史が静かに語り継がれます。

町が幌村建設株式会社に感謝状贈呈

町は３月４日、地域貢献に尽力した幌村建設株式会社（幌村司代表取締役）に感謝状を贈りました。

幌村建設株式会社は、町道新町線の排水施設や厚真神社参道の整備を行うなど、町道の維持管理や環境改善に貢献されました。このほか、胆振東部地震の災害復旧工事では、厚幌導水路ウクル川横断工事等を施工し、これまで町内でも森林土木事業の施工の実績があります。

感謝状を手にする幌村代表

北海道指導農業士に大捕雅寿さん 北海道農業士に荒城一憲さんと小林廉さん

（写真上）
北海道指導農業士の大捕さん（右）と北海道農業士の荒城さん（左）

（写真左）
北海道農業士の小林さん

今年度の北海道指導農業士に大捕雅寿さん、北海道農業士に荒城一憲さんと小林廉さんが認定されました。

大捕さんは稲作や花き、畑作を営み、実践を介して培った生産技術や知識を還元して地域農業の振興に尽力されています。また、荒城さんは畑作や野菜、稲作を営み、経営基盤の拡大に加えて新規就農者の受け入れなど地域の発展に貢献しています。小林さんはテンアール（株）の代表取締役で、町内唯一の平飼い養鶏場として生産、加工、販売、飲食店と幅広い事業展開で独自のブランドを確立しながら地域振興に尽力しています。

まちの話題

能登半島地震被災者へ 毛糸の手編みグッズ作り

真心を込めて編み物する住民の皆さん

地域コミュニティの活性化などを目的に11回目を迎えた「あつまるカフェinならやま」が３月７日、厚北地域防災コミュニティセンターならやまで開かれ、主婦など約10人が手編みの毛糸でブローチなどを作りました。

住民活動団体「つむぎ」の村上朋子さんらが、利用者の声を聞いて企画したワークショップです。胆振東部地震の際、心のこもった編み物作品に心がいやされた経験から、能登半島地震の被災者に思いを届けようと毛糸の小物づくりを行うことにしました。町社会福祉協議会が協力して色とりどりの毛糸を準備。参加者は使い慣れたかぎ針を持参し、経験者から手ほどきをうけながらひと針ごとに真心を込めて編み上げました。

北海道指導林家に西埜将世さんを認定

令和５年度の北海道指導林家に西埜将世さんが認定され、３月18日に総合福祉センターで認定証が交付されました。

現役の北海道指導林家は、北海道で328人、胆振管内では西埜さんが17人目。地域おこし協力隊を経て、馬と一緒に森に入って林業を行う西埜馬搬を営み、森の自然を学ぶ野外教室や各種イベントにも参加し、林業の振興に尽力しています。

胆振総合振興局森林室の淡路素行室長から認定証と指導林家の腕章などを受け取った西埜さんは「北海道指導林家のメンバーの中では、まだまだ未熟です。皆さんの指導をいただきながら成長し、地域の林業振興に貢献します」と語りました。

北海道指導林家の西埜さん（中央）

厚真町高齢者大学の修了式

終了証書を受け取る高齢者大学の学生

厚真町高齢者大学の修了式が３月21日、総合福祉センターで開かれ、学長の宮坂町長から54人に修了証書が贈られ、すべての行事に参加した２人に皆勤賞が手渡されました。

高齢者大学は、昨年５月の入学式以降、レクリエーションや健康に関する教室、研修旅行、交流会など毎月１回の行事を開催してきました。

宮坂学長は「好奇心を抱いて創造力を働かせ、人生の達人として皆さんの背中を若い人たちに見せてあげてください」とあいさつ。生徒会長の木下八重子さんは「社会とのかかわりは、対話と笑顔を作ります。新年度もまた、学友の輪を広げていきましょう」と話しました。